

城山

西道 僊

孤軍奮闘用も破つて還る  
一百の里程墨壁の間

吾劍既摧吾馬は斃る  
秋風骨を埋む故郷の山

【作者】

西 道仙（一八三六〜一九一三年）天保七年熊本県天草に生まれる。名は喜大（きだい）、号は琴石（きんせき）、字は道

仙。明治五年学制頒布以来多数の子弟を擁して教学の道に挺身し、また明治二十五年には長崎文庫を開き長崎郷土史に寄与すること大きく、長崎区会議長・衛生委員会幹事長・医師会副会頭などを歴任し大正二年七月七十八歳にて没す。寛齋（かんさい）と号し医師の儒者として世に知られている。

【語釈】

\*孤 軍…援軍のない孤立した軍隊 \*里 程…道のり \*壘 壁…とりで 敵を防ぐための城壁  
\*故郷山…城山をいう ・鹿児島市の北部にある高さ100メートルの丘・裏の岩崎谷には西郷隆盛が最後の五日間起居した洞窟がある

【通釈】

孤立無援の軍勢で奮（ふる）い闘って、官軍の重囲を突破し、故郷の城山に帰りつくことができた。百里もの道のりを敵のとりでの間を脱出してきたのである。やっと帰ってきたが、たび重なる戦いで、わが剣はすでに折れ、わが馬もたおれて死んでしまった。もはやこれまでである。今は秋風の中、懐かしい故郷の城山で、わが骨を埋める身となった。